

NO	大分類	中分類	小分類 (施策)	意見	対応内容
1	学校教育	1人1台端末	1-1	1人1台端末の家庭学習での活用状況について課題があれば、指標を設定してはどうか。	1人1台端末の家庭での活用状況については、持ち帰りなど、市町村や校種により差が大きい。 また、授業における活用状況についても、同様の状況であるため、まずは授業における活用状況を改善すべく、基本目標2-4に授業におけるICT機器の使用に係る指標を設定したところ。
2		高校教育	1-5	基本目標1-5「高校教育の充実」に高大連携に係る取組の記述を増やせないか。大分県には特色のある大学がたくさんあるので、高校生の成長に合わせた形で、しっかりと連携して欲しい。	ご指摘のとおり、高校と県内大学との連携は非常に重要なものであると認識。他にも、同施策の主な取組②に「地域の産学官との連携」、基本目標2-1に「産業界や高等教育機関、地域団体等と連携」、基本目標2-2に「県内大学在籍留学生等との交流」について記載するなど、施策横断的に取り組むこととしている。
3			1-5	急激に子どもの数が減ってくる現実を直視した上で、教育活動を今後どう実施していくことが可能なのかを、ある程度想定して取り組み内容に追加した方がよいのではないかと思う。充足率も全体の数字はあるが、個々の地域での学校や学科でも異なるものだと思うので、定員割れの高校数も多く、このままの定員数でよいのかなどの再検討の必要もあるのではないか。	ご指摘のとおり、県立高校の定員については、大きな課題であると認識しており、主な取組③に「高校の在り方の検討」について記述したところ。委員ご指摘の定員数を含め、新たな高校の在り方についてしっかりと検討していく。
4		特別支援教育	1-6	現在、国では特別支援学級の1学級の児童生徒の数の基準を8人としているが、教員の働き方改革の観点から、1人の教諭が1学級あたり何人の児童生徒を担当しているのかといった、県のデータを掲載する必要があるのではないか。	特別支援学級に在籍する児童生徒は、個々の障がいの状態や程度、支援内容も異なるため、児童生徒数が教員の業務量に必ずしも比例しない部分がある。 また、本県における、令和6年度の特別支援学級担当教員1人あたりの平均担当児童生徒数は、小学校で5.4人、中学校で4.9人となっており、国の基準(8人)を下回っている状況にもあることから、基本目標4-2に記載の通り、教員業務支援員の活用等を通じ、時間外在校等時間の縮減を図りながら、着実に働き方改革を推進していく。
5		1-6	知的障がい特別支援学校高等部生徒の一般就労率に向けて、さくらの杜高等支援学校をモデルとした一般就労に特化したカリキュラムを実施するクラス編成を他の支援学校に広げることが必要ではないか。	ご指摘のとおり、知的障がいの生徒の一般就労に向けた取組の重要性について承知。 現在、知的障がい特別支援学校高等部5校において、職業自立に向けた教育に特化した教育課程を編成した職業コースの設置や、その他の学校においても、個々の生徒の卒業後のニーズに合わせて柔軟に職場実習の回数を増やす等の取組を行っている。また、さくらの杜高等支援学校のセンター的機能による授業・実習等のWeb配信等も行っており、今後も知的障がいの生徒達が一般就労できる取組を進めていく。	
6		ICT	2-1	教員がICTを利活用できない状態では、児童生徒が利活用することは難しいと思うので、教員がICTを利活用できる割合を目標指標として設定してはどうか。	委員のご指摘を踏まえ、「ICTを活用できる教員の割合」を設定。 今後もICTを活用できる教員の育成に取り組んでいく。

NO	大分類	中分類	小分類 (施策)	意見	対応内容
7	学校教育	ICT	2-4	今後AIによって社会が変わっていくといわれているが、教育、特にAIを指導にいかに取り入れていくかという点を十分に検討して欲しい。	ご指摘のとおり、教育現場におけるAIの活用については非常に重要であると認識。主な取組②「教育活動や校務における生成AIの活用に向けた効果的な教育実践の創出」により、指導へのAIの活用について検討を行いたい。また、現在、県内の一部の学校で生成AIの活用実践について、国の研究指定を受けており、ここでの優れた活用事例を県内の学校に波及させるなど、AIの活用推進に取り組んでいく。
8			2-1	仕事や翻訳においてAIを使用しているが、便利であるものの、修正なしではまだまだ使えない。AIを鵜呑みにせず、使いこなせるようにならないといけない。こういった勉強は、早いうちに実施すべき。そして同時に、AIを使いこなすような勉強を行う中で、リベラルアーツ教育や情緒教育も重要。英語力がないとAIを使いこなせないように、物の見方をしっかりと育成する必要がある。	ご指摘のとおり、AIからの情報の真偽を見極め、正しく活用することの重要性について認識。そのため、主な取組②「情報の収集や処理、発信など各場面に応じ、適切な判断ができる実践的な情報モラル教育の推進」により、子どもたちがAIを含めてコンピュータの性質を十分に理解し、正しく活用できる力の育成に取り組んでいく。
9		グローバル人材	2-2	グローバル人材の育成について、記述内容が英語力にフォーカスされていると感じる。グローバルに活躍するには、英語力があるに越したことはないが、自分の意見を発する事が課題だと思う。また、大分県には108を超える国の外国人留学生在が在籍するAPUがあることが強みだと思うが、主な取組に記載がなく、その強みを生かしていないと感じるので、検討いただきたい。	ご指摘のとおり、自分の意見を発する力の育成の重要性について認識。本県では高校生対象の「グローバルリーダー育成塾」において、生徒達が捉えた身近な課題から世界的な諸課題まで、解決方法の案をAPUの学生に発表し、ともに協議する場を設定しているところ。また、具体の学校名を記載していないが、主な取組②「外国語指導助手(ALT)や県内大学在籍の留学生や海外生徒等との国際交流などによる異文化理解の促進」により、県内の強みを活かした取組を進めていく。
10		いじめ・不登校	3-1	いじめ対策には、人権教育やスクールロイヤーの活用はもちろんのこと、認知行動心理学を応用した研修をするとよいのではないかな。	主な取組①「地域児童生徒支援コーディネーター等を中心とした組織的な支援体制の充実」では、地域児童生徒支援コーディネーター等を対象とした研修を行う予定であり、研修内容の充実に努めていく。
11			3-1	「主な取組」の記載内容だけでは、目標指標の「学校内外の機関等による専門的な相談・指導を受けた不登校児童生徒の割合」は達成できないと思う。この目標を達成するには、SCやSSWを増やすべきではないかな。	目標指標を達成するにはSC、SSWの一層の活用を図ることが肝要。引き続き、組織的な相談体制の充実に取り組んでいく。
12			3-1	この先10年を考えると、多様な学びの場の確保ということが明記されているにもかかわらず、フリースクールに関する記述が少ないと感じる。加えて、指標についてSC、SSWに関することを想定しているというのが、今後10年を見据えているのかが疑問に感じる。以上のことをしっかりと整理していただきたい。	本指標の学校内外の機関とはSC、SSW以外に教育支援センター、フリースクール等の民間団体等も含まれており、そのような機関に繋げていくためにもSC、SSWの一層の活用が必要である。また、フリースクールは、多様な学びの場の一つとして相互に協力・補完するような取組が必要であり、引き続き連携強化を図っていく。
13			3-1	できる限りの対策を記述されているというのが率直な感想。しかしながら、生徒の内面に切り込んでないなども感じる。子どもたちの内面への働きかけについて記述がないわけではないが、十分ではないと思う。子供の内面を強くする取組が重要ではないかな。	主な取組①未然防止対策の充実に記載しているように、子どもの自己肯定感や自尊感情等心などを育むため、人間関係づくりプログラムの活用等を行っていく。

NO	大分類	中分類	小分類 (施策)	意見	対応内容
14		学校マネジメント	4-1	「芯の通った学校組織」が学校に浸透してきたと感じている。一方で、学校評価の4点セットにおいて教師が何にどれくらい取り組むかということにフォーカスされていて、本来学校が抱えている課題に気付くという視点が浸透するまではまだ時間がかかると思う。子どもたちにとって本当に良い学校にするために教員はどのようなことに時間を使うべきなのか、そのようなことが見える指標になればよいと思う。	指摘のとおり、教員の労働時間について、県としても問題意識を持っている。「学校・教師が担う業務に係る3分類」に基づく役割分担の適正化を徹底し、教員の働き方改革の推進に引き続き取り組む。 また、取組の進捗を測る指標として、「時間外在校等時間が45時間以内の教員の割合」を設定したところ。
15		部活動地域移行	4-2	教員の部活動指導に関しては、土日の指導など大変さが非常に浮き彫りになっている。部活動を学校と切り離していこうという動きがある中で、指導者の発掘など数値的な目標を掲げてはどうか。	ご指摘のとおり、とりわけ運動部活動において、指導者の確保が課題となっている。一方で、指導者の確保については、量のみならず質も求められることから、基本目標7-2「県民スポーツを支える環境づくりの推進」において、専門性の高い公認スポーツ指導者の養成・確保に向けた取組を進めることとしており、登録数に係る目標指標も設定したところ。
16	学校教育	人材確保	4-2	教員を確保することは私学にとっても近年課題となっている。県は採用試験の工夫や教員免許取得者の掘り起こし、また60歳を超えた教員の継続任用の促進など、あらゆる努力をしているが、それでも急に教員志望が増えてくるということは期待できない。現場は育休や病気休職者の補充を探すのにも苦労している。そのため、文科省も推進している「特別免許状」の活用を主な取組に追加してはどうか。専門的に特化した知識や経験を持つ方々が教育の現場で一緒に大分県の教育に携わっていただければ、子どもたちにとってもプラスになることだと思ふ。	ご指摘のとおり、優れた知識や経験等を有する社会人等を教員として迎え入れることは、教員の確保はもとより、多様化する学校教育に対応するため、重要であると認識。 本県では、免許状の有無に関わらず、多様な経験や専門的知識・技能を有する優秀な人材の確保に向けて取組の充実を図ることとしており、ご意見を踏まえ、主な取組を以下のとおり修正。  〈変更前〉 ・多様な経験や専門的知識・技能を有する人材の確保に向けた教員採用選考試験の工夫改善  〈変更後〉 ・受験者確保に向けた教員採用選考試験の工夫改善 ・多様な経験や専門的知識・技能を有する優秀な人材の確保に向けた取組の充実
17		学校運営協議会	4-2	地域住民、保護者と、地域企業の3者が1つになって、学校サポートしていく取組が重要であり、高P連としても、PTAの非加入問題、保護者の数が減少している中、高PTAでは賛助会員ということで、県内の大きな企業あるいは企業の連合会に働きかけを行っている。学校運営協議会を活用した地域との連携は、小中では進んでいるものの、高校では道半ば。このような新たな取り組みを行う学校への支援や、保護者対応、地域の住民との様々なトラブルをサポートできる体制を構築できるとよい。	主な取組②「地域と連携した魅力ある高校づくりに向けた、県立高校への学校運営協議会の設置促進」により、高校への学校運営協議会の導入をしっかりと支援していく。 また、地域・保護者・学校等が協力し、トラブルなど適切に対応を図っていく。
18	社会教育	不読	1-2	読書をするのが目的化されてしまうと、何のために読書をしているかわからなくなってしまう。図書館の本を読めば読書をしたことになるのか、または、様々な資料を読むことは読書に含めるのかなど、読書の目的を今一度問い直す必要があるのではないかと。	次期計画においても、子どもたちの「豊かな心の育成」を目指すこととしており、「読書」は目標達成のための方法のひとつとして捉えている。そのため、子どもたちが、社会性や人間関係を育む力、自己肯定感等が身に付くよう、引き続き読書活動を推進する。
19			1-2	読書をするかしないかは大半が家庭の責任だと思う。そこに対して学校教育がどこまでできるのかは非常に難しく、限界があるように感じている。時代の変化に伴い、読書が他のことと比べて面白みを失っていると捉えざるを得ないのではないかと。	5-2主な取組③「地域に根ざした家庭教育の推進」のとおり、県として家庭教育支援の取組を充実させるとともに、1-2主な取組④「読書活動・体験活動の充実」のとおり、子どもが本に親しむ機会の充実等により、読書活動を推進する。

NO	大分類	中分類	小分類 (施策)	意見	対応内容
20	社会教育	家庭教育	5-2	不読の問題は家庭の責任が大きいとの意見もあったが、家庭の問題に中々行政が入っていきづらい部分もある中で、県として家庭教育支援に力を入れていくという姿勢をしっかりと示すことが重要。	5-2主な取組③「地域に根ざした家庭教育の推進」のとおり、家庭教育を支援するための職場環境づくりに取り組む企業等への啓発等、家庭教育支援の取組を充実させる。
21		社会教育人材	5-2	社会教育士の養成とその活用について、もう少し踏み込んだ記述ができないか。	ご指摘を踏まえ、主な取組②に「社会教育士の活用促進に向けた、社会教育人材ネットワークの構築・展開」を追加。
22	文化財・ 伝統文化	伝統文化	6	私は関東の出身で、大分に来てから20数年経つが、大分には、江戸時代からの藩の伝統文化が残っていることに非常に驚いた。例えば杵築や日出、臼杵などでは、文化の違いが見られる。藩がまとまって県になった当初は、まとまりがないことは、1つの問題だったと思うが、藩時代の多様性が残っている希有な地域だとも言える。各藩、各地域の時代的な背景を対外的にアピールしていくべきではないか。	主な取組①の「大分県・『大分県文化財保存活用大綱』と連動した市町村の『文化財保存活用地域計画の認定促進』」により、学校教育での活用を踏まえた具体的な取組を進められるよう、市町村に支援を行い、取組を進めていく。
				平松知事時代に一村一品運動を行い、非常に評価されたが、文化財・伝統文化の分野については、地域だけではなく、藩の文化を教育の現場にも押し出して行くべき。例えば、図画工作、美術、社会、地域について学ぶ時間などにおいて、生かすことができる。  小藩分立をまとまりがないと評価してきた歴史もあると思うが、逆に伝統を見直す視点、多様性や特色という視点から学校現場にアプローチしてもいいのではないか。	
23	計画策定 全般	-	-	基本理念「変化の激しい社会を生き抜く力と意欲を育む「教育県大分」の創造」の主語について、行政側か子ども側のどちらの視点にするのか。子どもを主語にする場合は、基本理念の言い回しは変わってくるかもしれない。 また、基本理念の実現に向けた、最重点目標としての「全国に誇れる教育水準」について、何か大分県独自の視点が必要ではないか。	ご指摘を踏まえ、最重点目標の「全国に誇れる教育水準の達成」を、施策を貫く重点視点として「『リアル×デジタル』の最適な組合せによる教育効果の最大化」に変更した。 施策の総合的推進にあたっては、AIなどの先端技術を積極的に活用し、リアル(対面による授業や体験活動)とデジタルを適切に組み合わせることにより、教育効果の最大化を目指す。
24		-	-	熊本県は英語教育日本一、ICT教育日本一を掲げて取り組んでいる。 具体的にどのようにして達成度合いを確認するかまではわからないが、おそらくそういう指標を用いて進捗を管理するものと思われる。大分県もこういったものを目指しますといった、具体的なスローガンを設定できるのではないかな。	
25		-	-	基本目標3の施策3のDXの推進によるきめ細かな教育の展開は、基本目標2の社会の変化に対応する教育の展開に入れた方がいいと思うので、検討していただきたい。	

NO	大分類	中分類	小分類 (施策)	意見	対応内容
26		—	—	<p>18市町村の教育課題を踏まえて、今回新たな計画案として示されているものと認識している。おそらく市町村は、本案をもとに、予算要求等の対応していくと思うので、今後、修正等が生じれば折に触れて提示して欲しい。</p> <p>18頁の将来の夢や目標を持つ中学生の割合の目標値74%は低すぎないか。子供たちに夢がないというのは考えられないこと。20頁のいじめ・不登校については、環境整備はできてきているものの、教員が対象の子どもの中に入っていない。対外的とか、他人事になる教員が依然としているので、例えば「子どもの居場所の確保ができている」など、新たな指標を検討できないか。</p>	<p>計画案については、会議やHPへの掲載などを通して、折に触れて共有したい。ご指摘の「将来の夢や目標を持っている中学生の割合」の目標値については、昨年度の全国学力・学習状況調査において、全国トップの自治体(秋田県)の数字を設定したものであり、九州を見ても70%を超えた県はない状況。多くの子どもが夢や目標を持てるよう、キャリア教育等の充実を図っていく。また、子どもの居場所を確保し、学びを保障することが何よりも重要であることから、特に不登校児童生徒に着目し、基本目標3-1に目標指標「学校内外の機関等による専門的な相談・指導を受けた不登校児童生徒の割合」を設定したところ。子どもの居場所、教育機会の確保に向け、研修等も充実させながら取組を進めていく。</p>
27	計画策定 全般	—	—	<p>計画は一般的には、理想像を示すものであるが、どのように取り組む、どういったリソースで行うなどの視点がぼやけがちになるので十分に意識することが大切。</p>	<p>ご指摘のとおり、計画を実行するに当たっての視点は大変重要であると認識。新たな計画の構成として、「10年後に目指す姿」を掲げ、その姿を達成するためにどのように取り組むかといった視点を「主な取組」に記載しているところ。今後10年を見通し、実効性のある計画の策定に向けて取組んでいく。</p>
28		—	—	<p>素々案段階ではあるが、句読点や表現に統一制がない部分が散見される。全体的にまだまだ見直しが必要。</p>	<p>ご指摘を踏まえ、句読点や表現の統一を図った。</p>
29		—	—	<p>多様化する社会において、平均点をもって評価をすることにどこまで意味があるのか、例えば個々の子どもたちがどれだけ伸びたか、といったところにフォーカスすることも次期計画に向けて検討する必要がある。</p>	<p>素案に用いている文部科学省等の調査は、対象が毎年度異なり、個人の変化を追うことは困難であることから、施策の県内全体の進捗を測るにあたり、平均を用いているところ。一方で、ご指摘のように、個々の子どもや学校がどれだけ伸びたかという視点は大変重要。計画に掲げる取組を単年度レベルで具体化した各種事業等において、しっかりと取り組んでいく。</p>